【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果

様式１（小・中）

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	みやき町立三根西小学校
1　前年度 評価結果の概要	**・日々の授業や校内研究で、自分の「問い」をたてたり、書く活動を取り入れたりしたことにより、学力の向上が見られた。来年度は、本年度以上に授業力の向上に努めていきたい。** **・「ぽかぽか言葉」「ぽかぽかアクション」の推進や道徳教育の推進等が豊かな心の育成に効果的であった。いじめの定義の確認や組織的ないじめ防止の取組を一層推進することにより、いじめの早期発見、早期対応に努めていきたい。** **・朝食の喫食率が高い。運動習慣については、二極化の傾向が見られる。来年度も運動習慣の定着のために、スポーツチャレンジの紹介や縄跳び大会をよいきっかけにしたい。また、徒歩での登下校も励行したい。**
2　学校教育目標	**やさしく、かしこく、たくましい三根西っ子の育成**
3　本年度の重点目標	**①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成）** **②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成）** **③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85％以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は80％。今後さらに、成果指標を意識した授業づくりを進めていく。	A	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は90％であった。中間評価と比較して、10ポイント向上した。成果指標を意識した授業づくりを進めた結果だと考える。	A	・話合によって、問題の解き方が分かるようになってきたという児童の声がある。また、友達から話を聞いてもらうことがうれしいようだった。	【学び部】 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○校内研究の推進	○授業力が向上したと回答した教師85％以上	・年間指導計画の見直しを行う。 ・学習指導案の形式の精選を行う。 ・めあて、見通しが分かる授業を行う。	B	・年間指導計画や指導案形式等、全員の共通認識のもと見直しを進めることができている。 ・学年部での授業づくりを進めているため、複数体制での研究が図れている。 ・低中高学年での研究授業を通して、三根西小としての陸上運動の単元計画を作成していく。	A	・授業力が向上したと回答した教師は88.8％であった。 ・学年部、専門部での活動を通して、多くの成果と課題を洗い出すことができ、来年度へつなげることができた。	A	・体育は、体力差や技術の差が明らかになりやすい教科なので、今まで以上に個人差に配慮した授業をしてほしい。 ・授業協力者と一緒に授業に取り組むというのは、教師にとっても児童にとっても有意義な事業である。	【学び部】 ・研究主任 ・学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳に関するアンケートを年に2回実施する。 ・仲良し集会や縦割り活動を行い、自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	B	・週1時間の道徳の授業実施できている。 ・道徳アンケートの実施1回目を実施した。1月に2回目を実施する予定。 ・ふれあい道徳実施予定。 ・集会活動はリモートで実施している。	A	・週1時間の道徳の授業を実施、ふれあい道徳年1回実施した。 ・道徳アンケート実施。肯定的回答は2回とも約95%だった。 ・コロナ感染症予防に努めながら、集会活動、縦割り活動を実施した。	A	・ふれあい道徳として、授業参観で道徳の授業を見せてもらうことで、保護者の理解につながっている。 ・登下校の様子を見てみると、上級生が下級生の面倒をよくみている。学校での教育の成果が表れているのではないか。	【ぽかぽか部】 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的に対応できていると回答した教員85%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	・夏休みにいじめについての職員研修会を行い、いじめの認識の共通理解を図ることができた。また、職員連絡会や職員会議で、必要に応じて話し合いを行った。 ・7月より毎月いじめアンケートを取り、いじめの早期発見に役立てるようにしている。	A	・毎月１回、いじめに関する調査（心のアンケート）を実施した。担任だけでなく、生徒指導担当、養護教諭、管理職で対応し、早期発見に努めることができた。 ・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルに関しては、内容を検討し、全職員に周知徹底した。	A	・毎月のアンケートで、困っていることを書くと担任が話を聞いて解決してくれるということで児童の安心感につながっているようだ。 ・今後も重大事案に発展しないように早期発見・早期解決に努めてほしい。	【ぽかぽか部】 ・生徒指導担当者 ・教育相談 ・管理職
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・キャリアパスポートの活用を図り、年度初めに立てた年間の目標に対して、振り返りを行い、達成度を自己評価をさせる。 ・「夢の教室」や道徳を通して、児童に夢をもつことや、夢に向かって努力することの大切さを、実感させる。	B	・全ての学級がキャリアパスポートを使って年間目標を設定している。また、ほとんどの学級で、一学期の振り返りや行事における目標設定や振り返りを通して、自己評価を行わせている。 ・道徳の授業では、全学年において「希望と勇気、努力と強い意志」などに関する内容を実施している。	A	・キャリアパスポートを使っての目標設定や振り返り、自己評価は各学級で、計画的に行うことができた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、88.8％であり、90％には届かなかったものの、成果指標を概ね達成しているといえる。特に、「夢の教室」を実施した6年生では、「将来の夢や目標を持っている」についての肯定的な回答が95.8%だった。	A	・佐賀新聞の「ぼくの夢、わたしの夢」を見て、夢や目標を持つことは、すばらしいことだと感じた。 ・将来の夢ばかりではなく、近い未来の目標も設定し、達成してほしい。 ・昨年より、肯定的な回答が増えていて、すばらしい。	【生き生き部】 ・特別活動担当 ・教務主任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上	・食育の授業を年間1回以上、各学級で行う。 ・朝の健康観察で、朝の喫食の実態把握を毎日行う。	B	・食育の授業は、3・4年生は実施している。1・2・5・6年生は今後実施予定。資料を準備する。 ・朝の喫食の実態把握は、できている。（健康調査簿）	A	・食育の授業は、1学期に2学年。2学期に3学年。3学期に1学年実施した。 ・「健康に食事は大切である」と考える児童は、98.4%であった。	A	・家庭科の調理実習を機会に、家庭でも調理をする児童が増えている。 ・体調管理の面からも食育の大切さを感じる。	【ぽかぽか部】 ・食育担当 ・体育主任
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が１週間で420分以上の児童80％以上	・縦割り縄跳び大会を行い、運動に対する意欲を高める。 ・チャレンジスポーツの紹介をし、スポーツに取り組む機会を推進する。	B	・1学期はスポーツを推進する取り組みを進めることがあまりできなかったため、委員会の活動を通してチャレンジスポーツなどを中心とした運動への取り組みを推進していく。	B	・今年度は、感染症予防対策のため、運動に親しむ機会が減少した。その結果、授業以外で運動やスポーツを行う時間が１週間で420分以上の児童は66.1%だった。コロナ禍でも縦割り縄跳び大会を行ったり、委員会を中心に放送で運動を奨励する放送やスポーツ大会を実施したりして、運動の楽しさを味わわせることができた。	B	・登下校で歩くことも立派な運動だという意識を持つように歩いたことを評価するような取り組みがあればよい。 ・登下校時に自家用車で送迎している保護者を見かける。体力向上の面から、徒歩での登下校をより一層推進してほしい	【生き生き部】 ・体育主任 ・特別活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日や学校閉庁日を設定する。 ・衛生委員会等を通じて、勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。 ・校務シェアボードや校務サーバー等のICT機器の利活用を推進し、会議の時間短縮や分掌事務の効率化を図る。	B	・お盆の週が学校閉庁日になったことにより、リフレッシュを図ることができた。 ・勤務実態の共有を図り、業務改善を行ったことにより、退勤時刻が早くなった。 ・会議のペーパーレス化や会議の精選を行ったことにより、会議の時間短縮が図れている。	A	・衛生委員会や業務記録の振り返り等を通して、勤務実態の共有が図れたことが、在校時間の削減につながっている。 ・校務サーバーを整理し、保存方法を統一したことにより、次年度への文書の引継ぎがスムーズになった。	A	・教職員の在校時間は減っているようだが、その分、自宅に持ち帰って仕事をされているのではないだろうか。 ・教職員の意識を変えることも大事だが、積極的に情報発信して、保護者や地域の理解と協力を得ることも大事である。	・管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○チーム学校としての取組の推進	○地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携の推進	○「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師80%以上	・児童の安全確保や各種行事の効果的・効率的な実施のために地域との連携を図る。 ・小１ギャップや中１ギャップの軽減のために、幼保小連携、小小・小中連携の推進を図る。 ・配慮を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等外部機関との連携を図る。	B	・校内研究授業の授業参観を校内の職員だけにとどめず、三根中学校や三根東小学校にも案内を出し、参観を促した。中１ギャップの軽減のために小中連携・小小連携の推進を図っている。 ・青少年サポーター隊の方の登校中の見守りは効果的である。新型コロナウイルス感染予防のため、地域との連携を思うように実施できていない。 ・配慮を要する児童のために、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、民生委員に効果的に協力していただいている。	A	・「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師は、91.7%であった。昨年度の66.7%からかなり伸びている。今年度は、新型コロナウイルス感染対策をしながら、できる範囲で実施した成果だと考える。 ・今年度はICT機器の活用が進み、中1ギャップ軽減のため、6年生が中学生から話を聞く「ようこそ先輩」もリモートで実施することができた。	A	・幼稚園・保育園から小学校へ、小学校から中学校へスムーズに進学できるように今後も連携を強めていってほしい。 ・不登校や不安を抱えている児童のケアなど、専門的な機関と連携し、早期解決を図ってほしい。	【三校合同連携部】 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・教育相談担当 ・教頭

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・本年度から体育科の学習を通してに学び続ける児童の育成を目指して校内研究を進めている。ここで培った学び続ける方法や意欲を他教科でも生かしていきたい。 ・いじめはどこにでもあることを認識し、より一層の早期発見、早期解決に努める。そのために、毎月のアンケートへの対応や教職員による見取りを丁寧に行ったり、発見や解決のために教職員の研修を実施したりする。 ・今年度も運動の二極化は解消できていない。本年度は、コロナ禍で思うように体育行事ができなかった面もあるが、来年度は、体力向上のための取組を活性化したい。